第 2790 地区ＲＬＩ
第二回ファシリテーター
ブラッシュアップ研修会
記録

2023 年１０月７日（土） 於　千葉市民会館

第２回ＦＴフラッシュアップ研修会　鵜沢和広ガバナー年度
司会進行　佟　雪蓮（白井 RC）

開講にあたり　RLI 推進委員長　清田　浩義（千葉 RC）

あらためて皆さんこんにちは。土曜日の天気の良い、本当に秋らしくなった素晴らしい天気のなかですね、ゴルフでもしたいぐらいの天気ですが、お集まり頂きありがとうございます。今回が今年度２回目、ファシリテーターブラッシュアップ研修会を開催させて頂きます。今日は全部で 25 ～ 6 名の皆さんだと思います。後ほどですね、お手元の資料に、グループ編成がありますけれども、少し変則になっておりますので、是非、後で青木さんから、グループ編成について、改めて、御紹介を頂いて、各、グループチームに別れて頂いて、今日の振り返り。それから、実践の、実際のセッションのデモをして頂く予定になっております。是非、よろしくお願いいたします。私から、2・3、お話をさせて頂きたいと思いますが、今回１回目のブラッシュアップにお越し頂かなくて。今回初めての方、手を挙げて頂けますか。5 名。ありがとうございます。初めての方には、ガイドブック、今、お手元にあると思います。このガイドブックを、今日はフルに使って、進めていきたいと思います。実は RLI は、皆さんはディスカッションリーダー（DL）であって、セッションを運営していかれるときに、なかなか、本来、DL といってもやることは、ファシリテーションを、各セッションごとにして頂くのですが、私、なかなか、長くやりながら、以外にこのセッションというのは、難しいもので、セッションの運営というか、進行が難しいもので、このガイドブックはですね、そういう意味では、御覧になった方は、感じていらっしゃると思いますし、アデルさんはですね、今日のために、全部、ペルシャ語に、（アデルさん。全部じゃない。）今日の分を、ペルシャ語に翻訳をして、事前に、ご準備頂いた、ということですし、他の参加の方も、前回、松岡さん最後の「諸事お知らせ」のなかで、是非、今回の、ところを、読んできてください。もし、事前に読めない場合は、早めに来れば、私と一緒に、しましょうと。いうことで、どなたも、早めにお越し頂かなかったということは、皆さん自宅で、自習されたということだと思います。このファシリテーションガイドブックは、そういう意味では本当に、使い勝手といいますか、良いなと思います。後ほど、周藤さん青木さんのほうから、このガイドブックの内容について、説明をして頂きますけれども、改めて、皆様といっしょに、ファシリテーターとしての、自覚を一層ふかめて頂きたいなと、というふうに思っています。それから、今年度に入って、実は、昨日、一昨日ですか、今日

の第一グループのロータリー情報研修会が、行われていて、ロータリー情報研修会よりも、こちらのほうが、良いということで、参加頂いた方も、いらっしゃいまして、ですね、ありがたいお話だというふうに思っております。私も第2グループと、一昨日ですか、第13グループの情報研修会に参加してきました。第2グループの情報研修会は、まさにRLIが、クラブの活性化にこんな風に役にたつよという話が、勝浦RCの吉田理愛さんにお話を頂いて、私のほうから、RLIについて、少し説明をさせて頂いて、その後、懇親会もあったのですが、非常に、盛り上がってですね、勝ってですが、RLIファンが、少しずつ増えているのかなと。というふうに思っています。それから野田RCの卓話にもお邪魔して、ご一緒させて頂いたり、周藤さんと一緒に、茂原RCも参加させて頂いて、RLIのPRをさせて頂いたということであります。来年の2月からが、パートシリーズ始まりますけれども、今回が2回目、そして、3回目のブラッシュアップと、皆さんと勉強しながらですね、来年のパートシリーズに繋げていきたいというふうに、思います。それから、3ですけれども、今回は後ほどお話していただく、青木さん、実行委員長として、来年のパートシリーズに向けて、いろいろと、準備をして頂いているところですが、来年のパートシリーズに向けて、基本的には実行委員会のメンバーを、この12月の初めにチーム編成をしたいというふうに思います。昨年も、人数的にいうと、40名くらいの、皆さんに、実行委員会のメンバーになって頂いて、6つのセッションチームに分かれて、すすめました。RLIをすすめるのに、やはりこの実行委員会チームを、実行委員のセッションチームを、しっかり作り上げることが、RLIの命運を分けるといっても、過言ではないと、というふうに思ってます。今日、お越しの皆さん、はですね、是非、お仲間を誘って頂いて、12月に立ち上げる実行委員会に是非、御参加頂けるように、皆さんからも、ご案内を頂ければと、いうふうに思います。それでは、私の開講のご挨拶。以上でございます。今日、一日よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

RLI推進委員会　副委員長　周藤　行則（浦安RC）
第2回ブラッシュアップ研修会　RLIファシリテーターの実際

皆さん、こんにちは。今日も、集まって頂いた皆さんと一緒に、ファシリテーターをすることのおさらいをしたいと思います。それでですね、前回も、やったのですが、今回も、「ファシリテーターの実際」ということで、より実際の、する場合での、どうかということになります。パワーポイントを出しますね。まずですね、おさらいです。前回、ブラッシュアップ1で、お話したことなんですが、学校教育から、地球温暖化まで、ファシリテーションどこでも活用されると書いてありますけれど、現代の世相が、VUCAと呼ばれていてですね、非常に先行きが不安で、あまりきちっとした、確たるものがない。戦争が起きるし、貧困もあれば、日本の少子高齢化もあるし、こういったなかでは、なか

なか、過去の先人達の、高い理想だけでは、うまく対応できないんじゃないか。と、そのなかで、ファシリテーション。というものが非常にクローズアップされていて、というような話が、RLI の日本支部でも、ありましたし、RI のほうでも、近年でています。そのなかで、ファシリテーターとは、なんなのかなと。というところなんですが、ざっくりと、「三人寄れば文殊の知恵」を実現する、四人目であると。「三人寄れば文殊の知恵」昔からいいますけれども、やはり三人寄って、意見がまとまらないことが、多い。どんどんその、意見の主張をし合ったり、ですね、黙ってしまったりということで、なかなか、新しい斬新な考えというのが出にくい。んじゃないかなと。そこを、ファシリテーターが、うまく先導して、全く違う三者が、新しい切り口の考えを閃き出す。これがファシリテーターの役目だと。というふう言われています。RLI の発展は有識者の答えを教える場にするのではなく、多様な個性を持った参加者が答えを生み出す場にする。つまり、いままでの、研修セミナーでは、講師の先生が、「こうです。」という事を話すのですが、ファシリテーションの場合には、ファシリテーターは何も、そういう教える立場ではない。ラーニングの立場ではなくて、トレーニングということで、「皆さんどうですか。」「どうですか。」というふうに、振っていって、いろんなことを考えて頂いたなかから、話しがまとまるような事を、生み出す場です。お話を、講義をするのではなくて、話し合いの場にすることが、キーポイントになります。さらに、おさらいです。結論よりも大切なことがあります。つまり、セッションの時間で、「こういう事をしよう。」と、テキストブック、ガイドブックにもいろいろ書いてあります。良いガイドブックの進行法、全部、虎の巻で書いてあるんですが、これを全部やることが目的ではありませんよ。目的だけど。もっと大切な事があります。それは、この 8 つの要点になりますが、ファシリテーターは、一番詳しい人でなくて良い。充足感の蓄積が、話し合いの盛り上がりを生む。話し合いを深めるファシリテーターの関わり方。如何に話し合いを終えるか。こういった事がテーマになると。

そこで、8 つの要点。テキストに書いてありますけどね。まず、安心というのは、何を指すか。何よりも大切なもので、その場にいても、セッションの場にいても、大丈夫で、傷つけられない。否定されない。そういう安心感を持ってもらう。それから、充足。他者から認められる充足感。認められているという、その場で思えば、発言しようかなと。気持ちになりますよ。それから、共有。話し合いの目的。向き合うべき問いの話し合い方向が、判り易く共有される。つまり、この質問は、何を質問しているのか、判り易く自分の言葉で噛みくだいて、この人わからないかな、ピンときていないかなと思うひとに、噛みくだいて、質問をする。こういうのが、共有。それから関係。目的と問いが、自分にとって、考えることが必要で、重要だと思えたとき。参加者は、より前向きに答えを模索し、続けます。質問が自分に関係がなかったら、考える意欲がないですよね。でも、自分に関係がある質問だと思うと、興味をもって、そこに食いついて、どうかな。と、考えてくれる。だから、関係は大事ですね。それと段階。抽象

的、これは、具体的な問いに分けて、段階的に声をかけて、いくことで、自然な思考の進化を促します。つまり最初から、詳しく、「ロータリーは、何ですか？」と、いうふうな答えをするよりも、そこに行く前の具体的に、「あなたは、ロータリーは、何日に、何曜日に開催で、何時からですか？」それぐらいのところから、始めて、ロータリーをどんどん深めていく。こういう段階を、追ってというのは、思考がついていきやすいですよ。ということです。あと、焦点。参加者の思考が一点に、焦点を結ぶように、折に触れて、今、向き合うべき、問いに、集中。問いかけをするのだけど、どんどん話が他の方向に夢中になって脱線していったときに、「こっちに引き寄せます。」「このセッションの話はこうなんで、ここに戻りましょうね。」ということを、考える。それから期待。なんでもないときは、聞かせてください。と、期待をもって問いかける。他でもない。あなたの考えはどうですか。ロータリーは、こうだと言われてますが、あなた自身は、どう思いますか？というような形で、期待してみる。それから、刺激。思い切った意見。斬新な切り口の、意見を引き出す。今まで、こう見ていたのを、こっちから。そっちから切る。ですね。以上の 8 点に配慮しながら、ファシリテーションすることで、他者からの評価の不安、議題への理解の不足。他者への教えてあげたい欲求。他者への意見から刺激を受ける事への、無関心が和らぎ、三人よれば文殊の智恵を活かせます。ざっと、前回の、講義の内容は、こうゆうことでした。本日の内容なんですが、RLI 当日、何の配慮をして、どのように進行すればよいのか、具体的なチェックリスト。ヒント集ということで、また、相も変わらず、漫画を書いて、のっけてきました。それで、ここでですね、今回初めて。前回いらっしゃらなかった人は、たしか、大網 RC の高山さん。それから木更津東 RC の石田さん。八千代中央 RC の田代さん。千葉北 RC の栗原さん。八千代 RC の杉さん。千葉 RC の東さん。誠に恐縮なんですが、今、読み上げた方は、皆さん、御起立をお願いします。前回もやりましたね。皆さん、御起立している方を、じーっと見てください。じーっと。じーっと。はい。ありがとうございます。さあ、石田さんは、あまり緊張されないですかね？
「緊張します。」
緊張してます。あー。よかった。田代さん、どうですか。
「緊張してます。」
よかったです。杉さんは？
「緊張しかないです。」
それから、栗原さんも緊張してないでしょう？
余裕ですよね。東さんも緊張してないかな？
「してます。」
してますか。ありがとうございます。高山さん、どうですか。
「緊張、島倉千代子です。」
(会場爆笑)
全然余裕じゃないですか。ありがとうございます。皆さん、御着席ください。なんで、立ってもらったかというと、前回も、ブラッシュアップ 1 で立ってもらったんですが、やっぱり立ったときに、皆さんの視線が集中するというのが、多少なりとも、緊張が、あるんですね。今の、立って緊張島倉千代子さん。と、おっしゃった、高山さんは、もう、余裕しゃくしゃくだと思うんですが、何も知らないで緊張していると、無口になります。それから、皆さんのようなベテランの方は、緊張すると、早口になる。で、ベラベラベラと。喋ってしまう。これが、両方とも、ファシリテーションをするうえでは、考えなくてはいけないことで、そこの部分を、ちょっと視線を体感して頂きました。では、まず、この具体的なチェックリスト、ヒント集に、関連して、大事なことはですね、ファシリテートチーム

内の打ち合わせです。これは、セッションチーム内が前もって、このセッションシナリオが、50分×6セッションあるものが、どのセッションも方向性が同じになるような、意思統一が必要かなと、ということで、セッションが事前の、ミーティングが必要であります。それから、物理的な環境を整えるということで、このための道具としては、机の配置。机はコの字型になります。そして、ファシリテーターが真ん中に立って、皆さんに、そばで話しかけたり、できるように、配置します。そして隣の人とも話し合いができるような、形にします。それから、最近あまり使わないのですが、この前西田さんがうまく、使っていらっしゃったのですが、ホワイトボード。ホワイトボードに重要なキーワードを、書いておくと、ファシリテーターもだし、参加者の方も、これ、キーワードと、脳に入るので、話しがぶれない。ということが、わかりますね。マジック。これは、ホワイトボードとセットですね。あと時計。ですね。時計はだいたい、時計のところにセットしてますけれども、皆さんと時間配分を共有できる。こういうことも、セッションをすすめていくうえで大事。それから、今日の皆さんにお配りした、ネームプレートです。これですね。セッションするときに、これがあると、皆さん名前と所属がよくわかります。それから、ファシリテーターの人は、あらかじめ進行メモを作っておくと、セッションの進行がスムーズです。あと、白紙の紙を皆さんにお配りして、その紙に、なんか書いてもらって発表してもらうというのが、基本パターンです。あと、飲み物。今日の、皆さん、飲み物は、ありますけれども、こういうもので、対等な意見が、出るように。ということで、気配りですね。それから、参加者の経験、価値観。感情を創造する。前もってですね、どんな感情をもっているのか、あらかじめ知ったうえで、話しをすることで、謙虚に参加者に関わることができます。
怒っているの、笑っているの、緊張していることを、前もって、想像しながら、セッションに挑みましょう。次ですね。最初に、視覚的に共有しておきたいこと。大きな目玉と書いてきました。これはですね、まず、言葉だけでは、脳って、反応が悪くて、耳からも入る。目からも入る。と、情報が脳に、しっかりと届きやすいですね。このなかで、46頁。テキストブック46頁に書いてありますけれども、グランドルールというのがあります。みなさんにお配りした資料にもグランドルールが書いてあるものが、あります。
●自由に討議に参加してください。
●注意深く、聞きましょう。
●他人の発言に対して寛容になる。
●自分と違った視点に感謝しましょう。
●経験を自由に語り合いましょう。
●本題から離れないように注意しましょう。
●発言は短く端的に行いましょう。
●楽しく、議論しましょう。

こういったようなグランドルール。これは、常に意識を、するように、致しましょう。そして、話し合いの幕を柔らかく、開ける。まず、ファシリターターとしての、最初の自己紹介。を、ゆっくり、柔らかく話す。自分の名前、所属、「今、ここにいる私の気持ち」を、かしこまらずに、最初の自己紹介をゆっくり、柔かく話す。自分の名前、所属、「今、ここにいる私の気持ち」を畏まらずに、柔らかく伝えることで、聞いている参加者の緊張感を、解く。本題に入る前に、参加者にも柔らかい、自己紹介をしてもらう。まず、最初の二つですね。私、ファシリテーターです。今、このセッションにいます。皆さん。こんにちは。私は浦安ロータリークラブ所属の周藤行則です。趣味は、フルーツを食べるこ

とです。フルーツ大好きで、私は、フルーツバットの生まれ変わりじゃないかと、いうふうに、思っています。今日のセッションを担当するので、とても緊張しておりますけど、皆さんのお力を借りて、これからセッションをしたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いします。というような形でセッションをします。今度はですね、参加者の方にも、柔かい自己紹介をしていただきます。ではですね、千葉 RC の東さん。前回お休みだったので、自己紹介をしてください。

「千葉 RC の東です。4 年目になりました。趣味は特にいまのところないのですが、甘いものが好きなので、よく事務所で甘いものを食べているんですが、それを食べすぎて、ちょっと、遠目でもわかると思うのですが、

だいぶ出てきたなと、お酒を飲んでいないのですが、これだけ出てくるようになりました。これを、RLI にも、アイスブレイクに活かせたらなと思いながら、今日、ちょっと使ってみたんですが、よろしくお願いいたします。以上です。」

こんな感じでですね、お互いに、安心感で満たすと。そして、一刻も早く参加者に、口を開いてもらうような、状況を作るということが大事です。今の気持ちに加えて共通の話題を設定して、自己紹介すると、間が持てます。例えば、今日食べたご飯何ですか？皆さんに聞いてもらうとか。今日、この場は、だれもが、ここにいる、かけがえのない、一人一人として向き合う場にしたいなど、ファシリテーターとしての、願いを添えます。さあ、これからが、スタートですね。本題にはります。本題に入ると、セッションのテーマ、目標を、共有します。自分の言葉で噛みくだいて、伝えようとするファシリテーターの姿勢が、参加者にとってのロータリーのロールモデルとなります。RLI のセッションが結論を出すためのものではなく、多様な意見を交換して、それぞれに気付きを得るためのものであるということを、確認、共有します。こでは、皆さん、「さん」付け。ガバナーも、パストガバナーも、「さん」付けで、皆さん、同じような立場で話をするというようなことが、大事です。意見を引き出す、ファシリテーターの態度、動き方、話し方。FT というのは、ファシリテーターの。長いので、FT にします。FT と参加者の呼び方なんですが、皆さん、「さん」付けで呼びますよね。言葉背後から、FT の持っている、マインドがにじみでて、それが参加者の気持ちや態度に影響する。「これは、こうじゃなきゃいけないんだ。」という姿勢で挑むと、皆さんの答えは、そっちに集中してしまって、自分の意見を置いといて、ファシリテーターが、こういっているから、こういう意見を言おう。という、ことになると、多種多様な意見がでなくなる。FT に求められるマインドは、受容、共感、興味関心です。自分の考えに興味を持ってくれるから、FT の考えに興味をもってくれます。立ち姿だけでも、参加者に影響を与えます。例えば、こんな感じでやったら、威圧的に感じて、駄目でしょうね。ちゃんと、話しを聞いてますよ。はい。何何さん。何々さん。というふうに、ちゃんと向き合って、ということで、自分を大事にしてくれている。という意思表示が必要だと思います。そして柔らかな、まなざし。相手の目に合わせて、話しするときは、ゆっくり、わかりやすく。自分の言葉で、噛みくだいて、相手に届くような具体例を交えて、というのが大事ですよね。問いの種類、段階が、話し合いを深める。序盤では答えやすい問いを問いかけます。これは、答えやすい具体的なものから、抽象的なものへ段階的に、展開していきます。抽象的なものにたどりついてから、また、具体的なものに、返して、という展開をすることも、大事ですね。意見を視覚的に共有する。先程、ホワイトボード、というところがありました。そのことですね。皆さんの意見が出たら、キーボードに書く。これによって、視覚的に、思考を、調整する。共有すると。お隣さんとの気軽な雑談を活用する。ファシリテーションは、1 対 1 の関係ではなくて、横の関係でもあります。無駄口は構わないのですが、このセッションテーマに沿っての会話をお隣の人と話合いができることは、とても良いことで、1 対 1 で話を進めていくことよりも、テン

ポが早いですね。どんどんどんどん話が深まるということで、例えば、ファシリテーターが、3分から5分程度、意見交換を皆さんに、話し合ってください。ここは、二人ずつでとか、三人ずつで、まずこの問題について話し合ってください。という形にすると、皆さん、なんとなく、ファシリテーターには言いにくいけれど、おの状態だったら、三人だったら気軽に話せると、というような、安心感がありますね。それから発言する人にも、傾聴する人にも、公平に関わる。発言する人だけが大事なんじゃないですね。黙って、考えている人も、考えています。考える姿勢が、今度は発言する人にも、一生懸命考えてくれているということで、満足感を与える。というふうに考えれば、全員が発言ということは、必ずしも、必要ではない。考えて、一生懸命に考えて、答えがまだ出ない。という人もいて、発言する人もいる。答えが、出ない人も、考えている。あとで、また、「どうですかね。」今、考えたこと、結論でました。と、振っても、いいでしょうね。最後のスライドです。話し合いの場を、ゆったりと閉じる。前回もそうですが、時間が足りない。それは、良いんです。話し合えたところまでが、成果であって、丁寧に振り返る限りにおいて、その中に、気づきはあります。今後の展望と感謝を述べて、話し合いの幕を、ゆったりと閉じます。最後は、「本日はありがとうございました。」という形で、締めくくって頂ければと、思います。以上で、私の話を終わります。

杉　晃（八千代 RC）
周藤さん。ちょっと。1頁目にね、下のほうには、多様な個性をもった参加者が答えを生み出す場にする話ではなく、ではなく、じゃないんです。落ち着いたほうが、いいんです。そしたら、結論を出すものではなく、多様な意見を交換して、それぞれが気付きをもつ。5頁に書いてあります。これに繋がるんです。答えを出さないこと。

私、作るとときにちょっと、ワープロ上で、間違えたようです。
杉さんのおっしゃる通りです。

杉　晃（八千代 RC）
そうでしょう。答えを出す場にする話しではなく、話し合いの場にすると言われたから、おかしいなと、思って、結論を出すところではないなあと、ということで。

ありがとうございます。

杉　晃（八千代 RC）
前からも、私、何回も言われて。結論を出そうと、頑張っていたんですが、腹に染みてますんで。

皆さん、杉さんから、とても、大切な御意見を頂戴しまして、私、ここは、ちょっと間違えてしまいまして、ここで切ってしまいましたけれど、話しが、場にする話しではなく、話し合いの場にするということで、訂正をさせていただきます。杉さん、ありがとうございます。

杉　晃（八千代 RC）
いえいえ。当たり前のこと、言ったまでで。すみませんね。

RLI 実行委員長　青木　洋明（千葉北 RC）
RLI 参加者テキストをどう読み解くか？

はい。皆さんこんにちは。今年度ですね、RLI 実行委員長になりました、千葉北 RC の青木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
今日はですね、RLI の参加者テキストをどう読み解くか。ということで、今日、初めてもらった方もいらっしゃると思うのですが、今日、初めてテキストを貰ったという方、手を挙げて頂けますかね。4 名ほど、いらっしゃるということで、今日は、テキストを読んでないかたにですね、どういう意図でこのテキストを使っていったらよいか。ということを、お話したいと思います。まずは、RLI カリキュラムの全体構造の把握ということで、みなさんよく、パート I シリーズ、パート II シリーズ、パート III シリーズということで、耳にしていたかと思うのですが、パート I は、ロータリアンとしての私。ということで、実はですね参加者の「私」という個人から始まっているんですね。パート I はですね、ロータリアンとしての個人の考えですとか、ロータリー観、こういったことを、まず、初めに学んでいこうというところから、スタートしてます。次にパート II、「私たちのクラブ」ということで、こちらのほうは、個人から、クラブへと広がっていくと。個人としてのロータリーに対する思い、クラブとしてのロータリーに対する思いということで、今度はですね、自分たちのクラブについての話しになります。次にパート III、「私のロータリーの旅」ということで、さらにロータリアンとしての、絶えざる学びの旅へと、段階的に、深まっていること。ということで、これ、１，２，３と順番でやるんですが、まずは個人から入って、自分たちのクラブがどういう活動をしているのか。それを踏まえたうえでの、ロータリーの旅ということで、段階的に深めていくというような。こういう感じになっています。旅として、ロータリアンとしての、成長と、ロータリー観の確立であるということで、それぞれ皆さんのクラブも違えば個人のロータリーに対する、考え方も、当然違うと思うのですが、それを、皆さんの、意見を出してですね、深めていく。というような感じになっています。RLI が目指していること。RLI の「旅」とは、「Journey」長い旅の道中。「私のロータリーの旅」とは、終わりなき学びの旅路である。とうことで、旅というと、「travel」とか、「trip」という言葉が使われるのですが、目的地から、旅先に行って戻ってくるというのは、「travel」とか「trip」という風発言をするわけなんですが、ロータリーの旅「Journey」はですね、道中、いろいろなことがあって、終わりがない。そういうような旅というような、意味としています。特定の正解ですとか、あるいは既存の正解にたどりつくことを、目指すのではなくて、絶えることなく、探求し続ける。こととということで、特定の正解とか、既存の正解にたどりつくこと。ということではなくて、皆さん、それぞれの、考え方というのがありますんで、そこらへんを、探求し続けて、いこうと。ということが、ロータリーの「Journey」

という　旅になります。

フレーム・モジュールが意味すること。皆さんに別紙でですね、テキストのものを１枚コピーしたものがあると思うのですが、６つの標準カリキュラムセッションということで、こちら６つの枠があると思うのですが、おれは学べる番号を設定したパートというような形になっています。枠がパートということで、カリキュラムの横糸になっています。フレームは枠組みになっていて、学びの分野、６つ構成されているということで、枠になっているところが、フレームというような、形になっています。どのパートであっても、必要な分野を満遍なく学ぶことが許されているということです。今度はモジュールですね。モジュールというのは何かというと、構成部品。セッションということで、ここの中に、カリキュラムが、段階的な学びを導く、パートⅠからパートⅢまで細かいセッション、構成部品が、あるよ。とおうのが、モジュールとなっています。結構、満遍なく学べるように、６つのフレームが設定されていて、それぞれのフレームがモジュールとしての、セッションからの成り立つということで、これはですね、第１セッションということで、
私のロータリーの世界。
ロータリーの機会強いクラブをつくる
規定審議会
こういったようなセッション構成部品によって、わかれているということを、意味しています。次に、セッションプラン検討の際の留意点ということで、ファシリテーターは、セッションの目標や問いを、自分のものにして、自分の言葉で語れるようになってこそ、参加者の思考を刺激し、率直な意見を引き出せる。ということで、皆さんはセッションの目標とかですね、問い。テキストのなかに、セッションの目標と、問い１　２　３　４　というとで、自分の言葉で語れるようになるということで、結構、そこは、参加者が答えにくい。というケースというのが、あるんで、それを、ちょっと噛みくだいて、自分の言葉に変えて、設問をするとですね、問いをすると、非常に、参加者も答えやすくなっているのかなと、と感じます。次のファシリテーターは、テキストを熟読して、セッションをどのようにして、進行するか。プランを立てますが、参加者をその通りに動かすことにこだわってしまえば、参加者のRLIの旅にはならない。ということで、皆さん、たぶんセッションのファシリテーターをやるときに、その箇所を読み込んで、どのように、進行をしていくか、プランを立てるかと思うのですが、参加者を自分が思っているとおりに動かしていこうというふうな、ことをするとですね、参加者のRLIの旅にならないということで、これは、多様な人がいますので、いろんな意見が飛び交う。そうゆうような状況をいかにファシリテーターがつくっていくというのを考えてほしい。という意味合いです。みんなこれ、正解、正解というか、自分もその意見だねという、意見が立て続けに続いてしまうと、それは話が終わってしまうので、参加者のRLIの旅になるように、やってもらいたいなというふうに、思います。つぎに、ファシリテーターの問い掛けと環境づくりが重要ということで、実はファシリテーターの問いかけとですね、その場の環境づくりというのは、非常に重要な意味合いがあります。参加者が、その問いに対して、深く考えたくなるような、そういうような、問いをしたいですが、あと、のびのびと発言するような、質問をしたり、多様な意見に出会えるような、互いに刺激と気付きを得られるように、ファシリテーターとして、問いかけをすると。環境づくり。さきほど、周藤副委員長の、ほうからでうすね、パッとみられて、ジロっと見られて、ちょっと質問しにくい、話しにくい、雰囲気になってしまいますんで、こちらのほうも、環境づくり、問いかけというのが、重要になってきます。次に、特定の答えに誘導せず、これは、参加者にとっての　旅、「Journey」に、役立っているか

どうか、ということを、常に考えるということで、意見はですね、結構、白熱してくると、次から次に意見が出る、というケースも非常にあると思うのですが、逆に、意見が止まってしまうケースもあるんで、そこも、うまく、特定の答えに誘導せずに、いろいろな意見がでるようなかたちで、進めていくということを、注意して、いただければと、思います。次に、RLI の旅は、時に少人数で、時に、智恵者の言葉に耳を傾ける。ということで、皆さんも経験したことがあると思うのですが、偶然にも隣合わせた人と、語らう、経験は、「くつろぎ」「気付き」をもたらす。ということで、今日、初めて会った、隣の何々クラブの、人と、話をしてみたらですね、知らなかった事が、いっぱいあって、すごい参考になったと、いう、気付きですね。こういうような、気付きをもたらしてくれる、ケースも当然、あります。智恵者との出会い。そこで、語られる、豊かな経験に耳を傾ける。豊かな学びへ繋がる。ということで、智恵者というのはですね、例えば、ガバナー経験している人ですとか。大きな、勉強会に出たときに、千葉 RC の櫻井さん。櫻井さんはですね、千葉 RC の会長を経験されているということで、いろんな事を学ばれていて、よく知っている。ということで、その人の意見から、得られる、情報というのが、非常に自分にとって、勉強になって、豊かな経験になって、いくという、ことで、智恵者との出会い、というのは実は、耳を傾けることによって、経験につながっていくと。とういことになります。次に、大人数で対話する必要がなく、時には、隣同士の少人数で話すと、新しい景色が開ける。ということで、隣にいる人を、話しを交わせるように、自分にとって有益な情報を得られる、という形になります。米山記念奨学事業、規定審議会、決議審議会のような、難しいセッションですね。たぶん、みなさん、このセッション非常に嫌だなと、思う人、たぶんいると、思うのですが、要は自分の知らないことを、人の間に入って話しを進めるといのは、非常に難しいことかと、思うのですが、これはですね、経験豊富なメンバーが参加しているときにはですね、その語りに耳を傾けながら、それを刺激として、参加者の対話を深めるのも、良いことである。ということで、例えば規定審議会とか、決議審議会で、そこのパートに入ったときに、さっきの智恵者ですね、例えば僕が、規定審議会の、ときに、たまたま木更津東 RC の山田修平さんが、たまたまいてですね、一人で 15 分くらい話して、非常に勉強になったね。というような経験があるんですね。知っているひとは、知っているんで、そういう智恵者の話を、聞くということは、参加している人にとっては、いろいろな情報になるというような、経験につながります。米山記念事業、こちらのほうはですね、米山記念奨学のほうに携わった方であれば、いろんな情報を知っていますんで、そういう人に話をさせると、自分が知らなかったことを、学びの経験につながるということで、非常に参考になるかなと。思います。たぶん、独断がすぎるのは、NG なので、ちょっと、話すぎちゃって、20 分とか、その人がずっと、しゃべってしまうと、それで、パートが終わってしまうんで、そこは、豊かな経験の上に、語られる言葉というのは、多様な気付きをもたらす、源泉であるんで、ほどほどに、話しをさせて、切り上げてもらうと。ただその話は皆さんとって、有益な、情報になりますので、そういうような形で、いければと思います。次に、事前の準備としてのプランの立て方ということで、皆さん、テキストを見られた方というのは、時間の配分ですとか、そういったことが、書かれていると思うのですが、所用時間の配分ということで、導入 5 分。本論 40 分、振り返りが 5 分ということで、実はプロセスというのがあってですね、導入というのは、アイスブレイク。目標の共有。まず初めに、どの人が参加されているかということで、環境をつくっていくと。作業を行います。次に目標の導入ということで、テキストに必ず目標が、セッションの目標がありますんで、これを誰かさして、読んでもらうか、それとも、誰か読んでくれる人、いませんか。ということで、手を挙げさせてですね、確認をする。作業をする、アイスブレイク。次に本論ですね。問いが 1 ～ 4 ということで、セッションの時間内に全ての、問いを、扱う必要がな

いということで、最後のほうの答えが結構、無理やり詰め込むケースが非常にあるかと思うのですが、自分でそこにいったときにこの話、結構話が飛び交うなというような、ときもあるんで、そこのときは、問いに、重点を置いて、話しを進めていくと、結構、そのセッションが盛り上がって、終るというケースがありますんで。最後の5分は、振り返り。学びの共有。　ということで、それぞれ振り返りを、よくまとめという言葉をつかうのですが、そこで出た、いろんな学びを、ファシリテーターというのは、参加者と共有して、最後は終わると、という順になります。内容はアイスブレイクからの、目標の共有、セッションの問いの1から順に、セッションの終わり方。ということで、三段階に、内容というのは、のっているという形になっています。話し合えたところまでが成果で、丁寧に振り返る会において、そんななかに、必ず、学びがあると。準備段階で扱い問いを、重要度に応じて絞り込んでおく。ということで、皆さんがセッションで、ファシリテーターをやるときに当然問いの1から、5番まであるかと思うのですが、そこのなかで、この問いというのは、非常に、話しが弾む、というような、ものが、事前に、チェックして、それを中心にして、進めていくと、結構、盛り上がっていくものがあります。今日はですね、私のほうも、この夏に、日本支部の総会とですね、先週は第2530地区の福島に、パートⅡシリーズに出てきたわけなんですが、そこのなかで、アイスブレイクということで、皆さん、こちらに、白紙の紙を入れてあるのですが、アイスブレイクということで、なにをするかというと、自分の誕生日にもらったら、うれしい物を、1分だけ時間をあげますので、書いていただけますか。なぜこれをやるかというと、その人の人柄等が発見できて、その場の雰囲気というのが、なごめる場になります。

マイケル鈴木さん。
「腕時計です。」

港の要子さん。どうですか。
「小さいですけれど、指輪です。」

わかりやすいですね。こういうふうに、その人が考えていること、発見ができるので、実は、なごむ。ケースとして、非常に良い。時間がなくなってきましたので、テキストをみて頂きたいのですが、60頁。ロータリアンとしての私ということで、まずプロセスの導入ということで、初めにアイスブレイク、自己紹介、リーダーシップについて最近思ったこと。参加者も自己紹介ということで、ここの部分は5分という短い時間ですが、周りがどんな人がいるか、紹介するうえで、なごませる場として非常に重要なところになります。つづきまして、目標の共有とういことで、セッションの目標をわかりやすく説明し、時間内に、目指すことを、参加者と共有する。ということで、ここのテキスト星印、あると思うのですが、ここというのは、共有したい重点ポイントになっているので、実は最終的にはその分を、確認して、次の問いに、行ってもらうと非常に、良いのかなと。思います。目標の共有ということで、探求イコール、問いに対する答えを、共に探しつくることを、強調すると。セッションの目標を参加者と共有すると。次に、本論が40分を切るところで、問い1　2　3　4　という形で進んでます。ビジネスにおけるリーダーシップと、ロータリーにおけるリーダーシップはどんな違いと、共通点があると思いますか。という問いから始まるという、ことで、最終的にはロータリーは、すでに、ビジネスでリーダーシップを集合している組織であるということを確認するということで。そこは最終的な落としどころなのですが、この問いは皆さんも、経験したことがあると思うのですが、ロータリーに

おけるリーダーシップと、自分の会社におけるリーダーシップ、社会においてのリーダーシップは、非常に違ったり、同じだったりとか、いろんな意見が、出るわけですが、それを最終的に、基本的には、ロータリーはリーダーシップの、リーダーが集まっている。集合している。組織なんだよ。ということで、最後は締めくくると。いう形になります。で、問３　問４という形になるのですが、ここのなかで、話が弾んでくると、時間的に問５　問６　できなくなるんですね。そこまで、全部やる必要はないです。話しが盛り上がったところに時間を割いて、良いんで、いろんな人から、意見を交わし合えるような、そういう環境づくりを、していくということが大事になります。最後の５分ですが、振り返り、学びの共有。ということで、今日の対話を振り返りながら、テキストの目標と要約を読んでみてください。今日の学びの気付きは、なんだったかと、思いますか。最後に、互いの学びをわかちあって、終わりにしましょう。ということで、最終的にまとめという形に、振り返りという形に。最後の意見を聞いてしめくくる。というそのような作業に、なります。これは、非常に読みこんでいくと、よく書かれている。と思いますので、これは、今日はですね、少しずつで構いませんので、皆さんも実践して、いければと思います。今日は時間も過ぎたので、私からのどういうふうにやるかということを、終わりにしたいと思います。御静聴ありがとうございました。

１チーム

２チーム

3 チーム

4 チーム

閉講式

本日の振り返り　RLI 推進委員長　清田　浩義（千葉 RC）

皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。今回、ファシリテーターブラッシュアップ 2 回目ということで、前回、今回と、周藤さん、青木さんによるお話を頂いて、もう一回、ファシリテーションとは何か。ファシリテーターとして、どんな風に、対話していくかということを、今日は、模擬セッションを含めて、していただきました。私も、第 2 グループで、ファシリテーションしたのですが、聞くとやるでは、大違いですね。周藤さんから、話をして頂いたように、8 つの如何に、参加される方が安心して話ができるような、そして、参加される方の期待にどのように応えられるか。そんなことを、イメージしながらですね、自分なりに一所懸命にやったのですが、空回り、空回りの、連続で、やっぱり奥が深いなあというのが、私なりの、実感で、ありました。それから今日はですね、八千代中央 RC の田代さん。ようこと、お越しいただきました。いろいろ情報を掴むと、ディスカッションリーダーでは、ない。ですが、思わず、来てしまったと。ということで、感想など、一言。聞かせてい

ただけますか。

田代（八千代中央 RC）
飛び入りの参加をさせて頂きました、八千代中央 RC の田代と申します。今、幹事をやっているものですから、情報がある程度入ってきてまして、こういう会があるんだと。というのを、実際に情報があって、出てみようかなと。昨年ですね、市川南 RC の長井さんに、田代さん、出なよ。と言われて、その話しを頭の隅に、あったものですから、それで、どういうものかということで、こちらに参加をさせて頂いて、本当に何をやるのか、わからなかったのですが、先程も、いろいろセッションの、模擬セッションとか、みさせて頂いて、こういうふうに、例えば司会進行も、含めてですね、やっていくんだと、非常に、ためになって、次回もまた、出させていただければと。（会場　拍手　拍手）ありがとうございました。

是非、次回来て頂いて、オブザーバーとして、御参加頂くのは、全然、ＯＫで、ウェルカムでございます。
合わせて、来年の 2 月からが、そういう意味での、田代さんにとっての、本当の本番ですので、もし、11 月御時間あれば、是非、オブザーブとうか、御一緒にして頂いて、来年の 2 月から、ばっちり、予定を入れて頂いて、よろしくお願いいたします。
それからですね、今日は、大網 RC の高山さん。お越し頂いたのですが、前回お会いしたときに、「もう、俺はね、DL 資格取ったけれど、おう、これで、いいよ。」といって、来ないかと、思っていたら、今日、お越し頂いてですね、ちょっと、思いがおありなのか。ちょっと、思いのところを、お話し頂きたいなと。

高山（大網 RC）
高山です。思いと言われても。ただ自分のクラブの、私大網 RC なんですが、自分のクラブの恥を晒すようなものになってしまうのですが、うちのクラブは、あまり勉強しないものですから、新しく入ってくる人に対してですね、フォローがなっていないんですね。ですから、前から、いる人も、人に聞かれたときに、「ロータリークラブって何ですか。」と聞かれても、まともに答えられないんじゃないかなと。私も大したこと、答えられませんが。そういう人が、多いんです。早い話が勉強していないんです。楽しければ、良いと。そういうロータリークラブなものですから、遊びだけは、一生懸命になんですが。そういうクラブなんで、是非、私が、もうすぐ私 80 になるんですが、もう、良いと、思って、いたんですが、そういうクラブの状況なものですらから、「やっぱり、しょうがないなと。」行って、もう一度、勉強して来ようと。そういうことで、出て

きました。また、よろしくどうぞ、おねがいします。

涙が出るような、お言葉を頂いて、なんとも、ありがとうございます。高山さんよりも、先輩が、まだまだ、いらっしゃいますので、よろしくお願いいたします。そういうことでですね、今日は、本当に、私も新たな、ファシリテート、あるいは、ファシリテーションとしての、新たな出発だなと、というふうに思いました。次回、第3回ブラッシュアップ研修会が、11月にありますけれども、最後はですね、3回目は、今日の模擬セッションのように、より沢山の、セッションをしたいというふうに、思います。ですので、私がこのテーマでこれをやりたい。というのを、是非、皆さん、お一人、お一人、セッションテーマを決めて頂いて、今日のなかにもあったんですが、そのセッションテーマを自分のものにする。今日、私も、私のロータリー世界というのを、やったんですが、自分のものにした、つもりで、話をしたのですが、やはりなかなか、うまくいきませんでした。是非次回は、皆さんなりにテーマを決めて、そして、自分のものに一回、自分のものにして頂くように、準備して頂いて、御参加頂ければというふうに、思います。ファシリテーターの旅は、これからがスタートですので、是非、よろしくお願いいたします。お礼の挨拶を兼ねて、総評とさせていただきます。どうもお疲れ様でした。

質問　RLI推進委員会　松岡邦佳（木更津東RC）
第1グループで、解決できなかった問題がありますので、どなたか教えて頂ければと、思います。
一つ目は、10月24日が、何故、ポリオデイなのか。
もう一つは、ポリオデイで、赤いシャツを来ていると思うのですが、なぜ、赤なのか。
その二つが、残りましたので、ちょっと、わかる方、教えて頂ければと。
（編集注　ポリオワクチンを開発したソーク博士の誕生日を記念して定められたこの日の前後に世界中のロータリークラブや地区がポリオ撲滅を目的にしたイベントを実施しています。）

さあ、わかる方。
大野さん、調べて、わかりましたか？

大野　（千葉RC）
世界ポリオデイで検索していただきますと、答えが出てまいります。初めてポリオワクチンの開発をしたチームを率いた米国の研究者ジョナス・ソーク博士の誕生を記念してポリオのない世界を目指す国際ロータリーによって、設立されましたと。書いてあります。赤の理由は、乗っておりません。
はい。ありがとうございます。大野さんのお話しを聞きながら、気がついたの

ですが、さっきお話したように、国際ロータリーは、ものの考え方を、トレーニングから、ラーニングへ、研修から、自ら学ぶ、ということに、変えたということですよね。自ら学ぶためのリソースは、マイロータリーのなかに、ラーニングという、マイロータリーのなかの、ラーニングコーナーというか、そのなかに、沢山、ペルシャ語もあると思います。なので、そこを調べて頂くと、いまの話も出てくると思います。そういう意味での情報は、マイロータリーから検索をして、自ら、情報を得てもらって、こういう皆さんが集まる、貴重な場は、その情報をもとにして、お互いに語り合うというところが、とても大事。そのことを、ラーニングということなんだと思います。そのことから、ロータリーも舵が決まりましたし、後は、何故、赤なのかと調べて、また、解った方は、是非、皆さんに報告してください。以上で、クエスチョンタイム終了です。

諸事お知らせ　　RLI 推進委員会　松岡邦佳（木更津東 RC）

RLI 推進委員会の松岡です。色々と御連絡をさせて頂きたいと思っております。前回、私が諸事をやって、12 時とかに、来いと。言ったんですかね。今日、私、12 時半に 3 階に上がってきたら、大野さんが少し怒り気味に、いたので、「今日は、何時からなの。」 僕は、1 時半からですと言ったのですが、たぶん、納得されてなかったので、理由がようやくわかりまして、たぶん、大野さんは、私が 12 時に来なかったのと、清田委員長が、早く鍵を開けなかったことに、ご立腹だと思います。なので、私と、清田委員長の、代わりに、私のほうで、謝罪をさせてもらいます。すみません。時間を忘れまして、申し訳ございません。続きまして、2530 地区で、福島地区の RLI パート II に参加して参りました。いろいろと参加させて頂いて、悩みがあったり、他地区の RLI に参加するということで、非常に良い勉強になったなと思っております。周藤副委員長と、青木委員長が、プラス 30 点くらいで、私がマイナス 70 点くらいで、トータルマイナス 10 点くらいで、抑えてきましたので、ちょっと、やらかした話は、この後、もし聞きたければ、私結構、やらかしてきたので、二人のおかげで、ちょっとマイナスで済ましてきました。二人のおかげで、今日、この後でますけれども、美味しい日本酒を、頂いてまいりましたので、この後、懇親会で披露させていただこうと思います。よろしくお願いいたします。まともな御連絡が二つ。ブラッシュアップの第 3 回目は、今度、11 月 4 日　土曜日　13 時半から、こちらの会場で開催されますので、田代さん、お待ちしております。皆さん、よろしくお願いいたします。この後、実行委員会。ファシリテーションする実行委員会を編成するために、皆様に、実行委員をお願いする形になるかと思います。おそらく、ここに、いらっしゃる方は、当然なので、参加頂けるのならば、明確な反対の意思表示がない限り、参加するほうに、させて頂きたいと思いますので、是非、御協力、よろしくお願いいたします。また、第 3 回と、来年のパートシリーズ、皆さんのために、頑張っていきますので、どうぞ協力よろしくお願いいたします。この後、懇親会よろしくお願いいたします。以上です。ありがとうございました。

第 2 回ブラッシュアップ参加者

セッションチーム 1

松岡　邦佳（木更津東 RC）

手塚　隆雄（千葉東 RC）

佟　雪蓮（白井 RC）

田代　充（八千代中央 RC）

櫻井　守（千葉 RC）

ゲイビ　アデル（柏西 RC）

セッションチーム 2

清田　浩義（千葉 RC）

山本　衛（松戸西 RC）

大野　雅章（千葉 RC）

櫛田　仁一（柏西 RC）

杉　晃（八千代 RC）

西田　貴一郎（千葉東 RC）

鈴木　マイケル　勝博（千葉港 RC）

セッションチーム 3

周藤　行則（浦安 RC）

山本　要子（千葉港 RC）

矢野　憲治（千葉中央 RC）

石田　亨（木更津東 RC）

小林　信雄（東金 RC）

セッションチーム 4

東　孝俊（千葉 RC）

青木　洋明（千葉北 RC）

栗原　洋一（千葉北 RC）

江上　俊彦（千葉東 RC）

神﨑　誠（成田 RC）

高山　義則（大網 RC）

矢代　秀明（浦安ベイ RC）